

第10回 6月30日の講義内容

- §3-5. サンプルの方法
 - 全数調査と標本調査
 - サンプルの種類
 - 無作為抽出の方法
 - 単純ランダムサンプリング
 - 系統抽出法
 - 多段抽出法
 - 層化抽出法

6/30/04

1

全数調査と標本調査

- 統計調査
 - 調査対象 = 母集団
 - 全数調査(悉皆調査)
母集団全体を調べる(記述)
 - 標本調査
母集団の部分集合を調べて、母集団の性質をあてる(推測)

6/30/04

2

サンプルの種類

- 標本のとり方 推定の精度を左右
(標本の代表性)
- 有意抽出(非確率的)
 - 典型調査: 典型的な集団を選ぶ
 - 割当調査: 属性によって調査数を割当
- 無作為抽出(確率的)
 - ランダムサンプリング

6/30/04

3

無作為抽出の方法

- まず、母集団リスト = サンプル台帳が必要
 - サンプル台帳として使用されるもの
 - 「選挙人名簿」
 - 電話帳
 - 各種名簿
- サンプル台帳から確率抽出

6/30/04

4

単純ランダムサンプリング

- サンプル台帳から乱数(一様乱数)によって抽出する方法
- 利点: 各個体が等確率で抽出
- 欠点: 母集団の属性構成と抽出後の標本の属性構成が異なることがある。

- 事前確率と事後構成比の違いに注意

6/30/04

5

単純ランダムサンプリング(2)

- 標本数と精度の関係
 - (例) 視聴率 関東地区(調査世帯600)
 - 2004アテネオリンピックバレーボール
世界最終予選女子・日本×韓国
フジテレビ '04/5/14(金) 19:04 ~ 視聴率 31.9%
二項分布より、視聴率 p の推定量の分散は $p(1-p)/n$
 $p=0.319$, $n=600$ として計算すると、 0.000362065 。
標準偏差は、 0.0190 。したがって、95%の信頼区間は $\pm 3.80\%$ 。

6/30/04

6

系統抽出法

- サンプリング台帳から等間隔で抽出する方法。等間隔抽出法ともいう。
- まず、母集団の総数 N を抽出する標本数 n で割り、 $k = N/n$ 個体からなる n 個のサブグループに分ける。
- 次に第1サブグループから乱数によって標本を1つ抽出する。以降サンプリング台帳から k 番おきに抽出する。
- (例) 1,000人の母集団から50人の標本を抽出するケース
 - $k = 1000/50 = 20$,
 - サンプリング台帳の1~20番から乱数で r 番目の個体を抽出。
 - 以降、台帳から $r + 20 \times j$ 番目 ($j = 1, \dots, n-1$) の個体を抽出。

6/30/04

7

多段抽出法 multi-stage sampling

- 母集団から直接ランダムサンプリングするのではなく、母集団を互いに排反する集団に分割して、まず集団をサンプリングする。次に抽出された集団からランダムサンプリングするという抽出法(二段抽出)。
- 抽出された第一次集団をさらに互いに排反する小集団に分割し、その小集団をランダムサンプリングする、ということが続けていくのが、多段抽出法である。

6/30/04

8

多段抽出法(2)

- (例) 近畿圏から100人抽出
 - 第一段: 大阪、京都、兵庫、滋賀、和歌山、奈良の6府県から一つの府県を抽出
 - 第二段: 第一段で抽出された府県から市町村を抽出
 - 第三段: 第二段で抽出された市町村からランダムサンプリングで100人抽出

6/30/04

9

多段抽出法(3)

- 抽出の原則: 末端が等確率で抽出されること
- 確率比例抽出
 - 第一段階の抽出で、個体数に応じて抽出確率を調整し、第二段階の抽出でランダムサンプリングする方法
- 等確率抽出: 第一段で複数集団の抽出を行う場合
 - 第一段階の抽出では、ランダムサンプリングで抽出。第二段階の抽出で個体数に応じた標本数を抽出。

6/30/04

10

多段抽出法(4)

- 数値例
 - A学部 在籍 300名
 - B学部 " 200名
 - C学部 " 150名
 - D学部 " 400名
 - E学部 " 150名
 - 5学部(1200人)から2学部を選び、100人抽出

6/30/04

11

多段抽出法(5)

- 数値例: 確率比例抽出

	抽出確率	第一段	第二段	=	最終
• A学部 300名		1/2	50/300		100/1200
• B学部 200名		1/3	50/200		100/1200
• C学部 150名		1/4	50/150		100/1200
• D学部 400名		2/3	50/400		100/1200
• E学部 150名		1/4	50/150		100/1200

6/30/04

12

多段抽出法(6)

● 数値例: 等確率抽出

割当数 第一段 × 第二段 = 最終

- A学部 300名 2/5
 - B学部 200名 $100 \times (200/600)$ 2/5 33/200 100/1500
 - C学部 150名 2/5
 - D学部 400名 $100 \times (400/600)$ 2/5 67/400 100/1500
 - E学部 150名 2/5
- 第一段でどこが抽出されるかによって、最終抽出確率が変化。

6/30/04

13

層化抽出法 stratified sampling

- 事前と事後を一致させる工夫の一つ。
- (例) A社社員から50人抽出
 - A社社員の学歴構成: 高卒70%、短大卒以上30%
 - 母集団(A社社員)からランダム標本を抽出するときの確率分布(事前) 高卒0.7、短大卒以上0.3
 - 抽出された標本の学歴構成(事後)
高卒0.5、短大卒以上0.5 ということもありえる。

↓
標本が母集団を代表していないおそれがある。

6/30/04

14

層化抽出(2)

- 事前と事後の層構成比を一致させるように、標本の割当数を層毎に決め、層毎にランダムサンプリングする。

= 層化抽出法

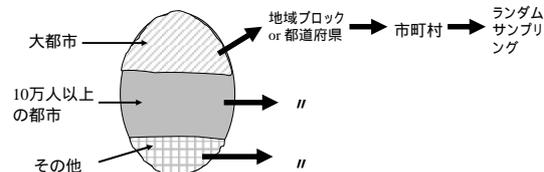
- この例では、「学歴」が層(stratum)に対応。
 - 高卒層への標本割当数: $50 \times 0.7 = 35$ 人
 - 短大卒以上への標本割当数: $50 \times 0.3 = 15$ 人

6/30/04

15

層化抽出(3)

- 層化二段抽出:
 - 層化抽出と多段抽出の組み合わせ
 - 世論調査などでよく用いられる



6/30/04

16